

平成二十七年改訂版

【 供養のしおり 】

五寶山 現 壽 院

URL : www.kenjuin.jp

〈目次〉

一、	葬儀のしおり（宇摩佛教団発行）	1	十二、	佛壇のまつり方例	14
二、	四十九日	3	十三、	永代供養について	15
三、	新盆	4			
四、	施餓鬼供養	5			
五、	お辰巳	6			
六、	お涅槃	7			
七、	法事	8			
八、	お彼岸	9			
九、	法事等祭壇の例	11			
十、	霊供膳	12			
十一、	掛け軸の仕舞い方	13			
				わが家の備忘録	16

一、葬儀のしおり (宇摩佛教団発行)

肉親の死という現実 これほどつらく痛ましい出来事はありません。

「生あるものは必ず死す」とはいいながら、悲しみが次から次へとこみあげてくるものです。

葬儀とは、不思議な深い縁に結ばれた人と人との人生最後の別れの儀式です。

悲しみは悲しみのままに葬儀・中陰を通じ、その中で人生の真実・生まれたことの意義を問う場にしたいたいものです。それが亡くなった人のもつとも願うところであり、その願いは私達の心に生き続けてゆくのです。

遺体の尊厳を守るという立場からも二十四時間を経過しなければ火葬は出来ないということであり、厳粛に、丁重につとめなければなりません。

葬儀の心得

一 臨 終

二 遺体の安置

遺体を納棺するまでは「北枕」といって、頭を北向にして寝かせます。

この北枕は、釈尊の入滅の姿勢にならつてのことです。

部屋の都合がつかない場合は、さほどこだわらなくてもよいでしょう。

三 寺への連絡

遺体を安置したら、まず第一に亡くなったことを寺に連絡します。

改めて、寺への連絡に使者を立て、二人で葬儀をおねがいます。

初めてその寺へ葬儀を依頼する場合は、親族を伴ってお願いに行きます。

四通 夜 近親・知己等が集まって、安置した遺体を見守りながら、葬儀までの一夜をあかす
ということですが。

五葬 儀 葬儀は、遺体のままで行われるのが本来の形式です。
従って、葬儀前の火葬は出来るだけ慎みましよう。

礼受け 喪主は、喪に服し祭壇最前列に座することが大事です。
よって、礼受けは喪主の代人が致します。

六出 棺 葬儀の式次第が終わったら、遺族・親族・近親者で「最後のお別れ」をします。

七中 陰 中陰壇をつくり、ご本尊をお迎えし・位牌（遺骨）を安置し、佛具をお飾りします。

以上、基本的なことからをのべましたが、くわしいことは寺の住職とご相談なさってください。

全日本佛教会 宇摩佛教団

宇摩佛教団とは 四国中央市・新居浜市別子山（旧・宇摩郡内）の宗旨を超えた寺院の宗団

一、四十九日（満中陰）

人が亡くなり、次の世界へ行くまでの間を中陰と言い、その最後の日を満中陰と言います。

葬儀が済み、初七日・二七日・・・と供養をしていき四十九日に忌明け法要（満中陰忌）を行います。

この地域では、初七日・・・と逮夜（忌日の前夜）という言葉が一緒になり

毎週夜行うお勤めを、お七夜と表現しています。法要事は、忌日前夜から当日にかけて行いますので

お七夜の場合その数え方は、亡くなった日を第一日目と数え、六日目の夜が最初のお七夜・七日目が初七日です。

忌日には墓参りをします（納骨が済んでいる場合）。これを毎週繰り返していき七回目の七日が四十九日です。

四十九日に忌明け法要を行うのが本儀ですので、当日までに寺に連絡をして打合せをおきましょう。

また当日までに、新しい位牌を準備しましょう。

（百ヶ日のお勤めと墓参りは家族で行います）

位牌については、種類・寸法・値段 等がありますので、適当な物をお店で購入してください。

尚、文字を彫るタイプの位牌を注文した場合、仕上時間がかかるようなので、早めに注文した方が良いでしょう。

繰りだし位牌のように文字を書くタイプは寺に持参していただければ、当日までに書いておきます。

忌明け法要に準備する物、祭壇は葬儀以降使ってきた物をそのまま使用します。

本尊掛け軸・佛具が必要な場合、寺に貸し出し用がありますので連絡を入れてください。

新しい位牌・霊供膳・お供え物・花・ローソク・線香・打ち鳴らし・焼香の準備（焼香器・焼香炭）など。

墓参りもしますので、墓の花・ローソク・線香・お供え物・参り米・マツチなども用意しましょう。

焼香とは 本尊様の御前で供養や願い事等をする場合、まず自分の心身を清めるために行う作法

三一、新あら盆ぼん

新佛様が初めて迎えるお盆を『新盆』といい祭壇等を準備して供養をします。

お盆までに祭壇を準備して八月十三日にお墓で迎え火を焚き佛様をお迎えし

お盆の間は家族・親類で供養を行い、八月十六日にお墓参りをして佛様を送れば、お盆の行事が終わります。この地域では、以前より新盆の迎え火を八月十四日に焚くのが慣習になっているようです。

新盆を迎える為の準備、祭壇は早めに準備しましょう。

新佛様の位牌・本尊様の掛け軸・霊供膳・お供え物・花・ローソク・線香・打ち鳴らしなど
墓参りの花・ローソク・線香・お供え物・参り米・マッチなど。

迎え火を焚く準備、線香を五本くらい束ねた物を百八束、又は新しい割り箸を百八本でも構いません。

最近は、迎え火セットを販売しているお店もありますので、購入されても構いません。

迎え火は、家の門口で焚くのが本来ですが、墓の前で焚くのがこの地域の慣習です。

当院では毎年八月十四日に、前年の八月一日〜今年七月三十一日に亡くなった方の新盆会を行っております。

案内状を差し上げますので、お繰り合わせの上、お参りください。

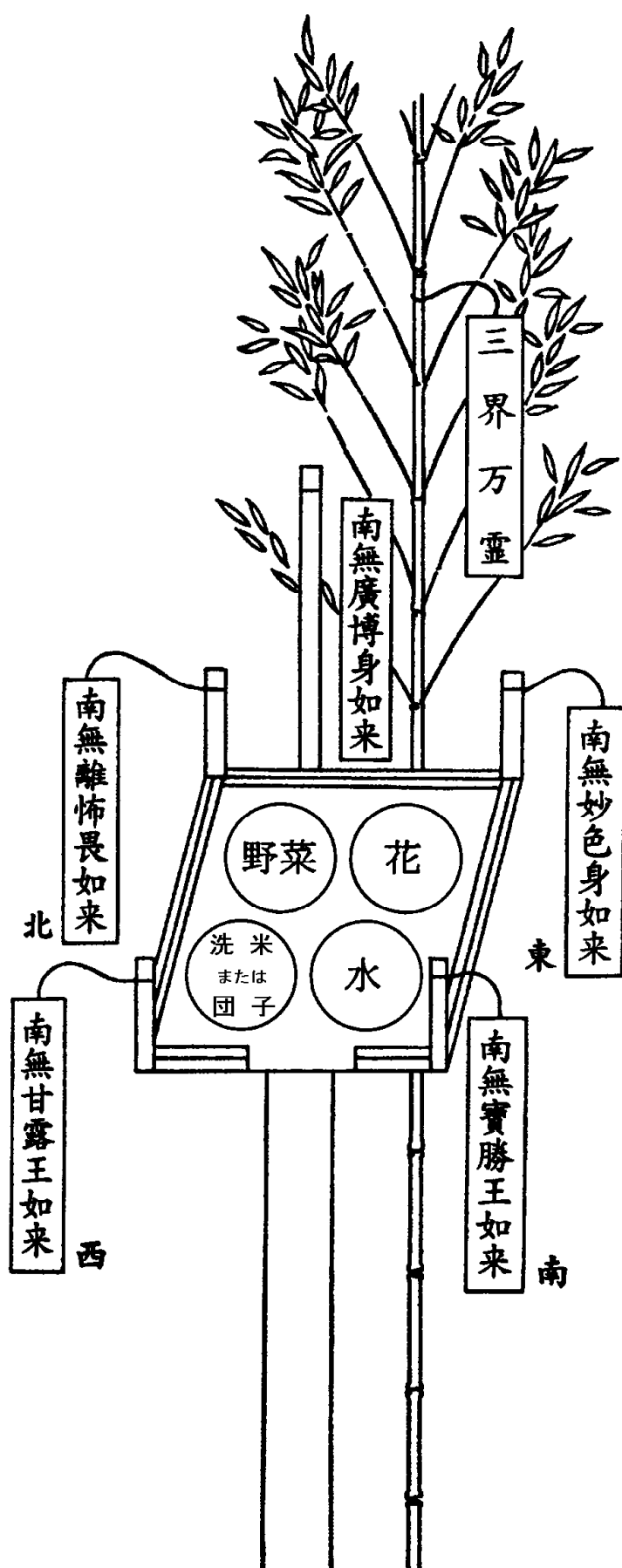
新佛様の居ないお宅でも、佛壇の準備と墓参りを忘れずに

お盆には、ご先祖様をお迎えして供養しましょう。

四、施餓鬼供養

毎年お盆には、先祖供養だけでなく有縁無縁供養の為に施餓鬼供養を行います。供養に使う壇を『施餓鬼棚』・『水棚』といいます。竹と菓子箱のような物が有れば、簡単に作れますが最近はお店でも購入できますので、どちらで準備されても構いません。

施餓鬼棚のまつり方例 (八月十三日から八月十六日まで)



施餓鬼棚に使うお札は、町内はお盆までにお配りします。お供えを簡単にする場合は、団子と水だけでも構いません。使ったお札は、八月十六日に墓でお焚き上げしてください。

五、お辰巳^{たつみ}

新佛様のお正月、巳正月の事をこの地域では『お辰巳』といいます。

十二月の最初の辰の夜から巳の朝にかけて祭壇でのお勤めと墓参りをしますが最近では、辰の夕方頃に墓参りをして、夜祭壇でお勤めをするお宅が多いようです。

準備する物、祭壇・新佛様の位牌・お供え物・餅・霊供膳・花・ローソク・線香・打ち鳴らし・豆腐一丁など
墓の花・ローソク・線香・ワラ・餅・竹・マッチなど

墓でワラや木を燃やして竹を鳴らします。また、ワラの火で餅を焼いて食べます。

なぜ、お辰巳に竹を鳴らす？

最近、環境破壊や火災が原因で禁止になった都市も多いようですが

旧正月や祝日・慶事の際、爆竹を鳴らして悪邪を追い払う中国の習慣に由来しています。

お辰巳は、真言宗の正式な宗教行事ではなく、元々地域の風習から出来たものです。
行事の仕方・準備する物など、地域によっても少々違う場合が有るようです。

六、お涅槃

(旧暦の二月十四日・十五日)

お釈迦様の入滅の日を涅槃といい、お釈迦様の供養を涅槃法会といいます。

お涅槃には、お釈迦様の供養に併せて檀家各家の供養も行いますのでお参りください。新佛様のお宅には三ヶ年ご案内致しますので、是非お参りください。

三ヶ年間お参りの際は、戒名を書いた『掛け物』をお持ちください。(新佛様以外の掛け物も受け付けます)

『掛け物』の書き方

お包みの表に、亡くなった方の戒名を縦一杯に書きます。

自分の名前は裏側へ。水引の色は黒を使います。(赤以外なら可)

尚、包む金額に決まりはありません。

お涅槃豆知識

掛け物とは 新佛様の特別供養の為に持ち頂く戒名を書いたお包みの事

塔婆とは 個別に供養する場合に申し込みます(〇〇家先祖代々・〇〇霊菩提の為など)

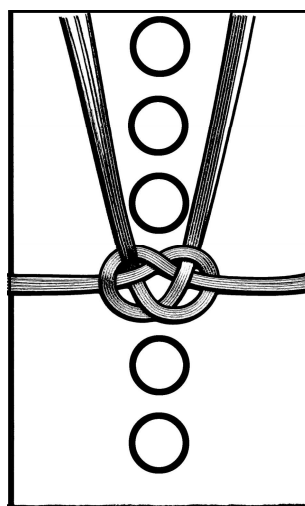
水の札とは 沢山の供養をする場合に人数分を申し込みます(親戚一同分・戒名不明など)

お涅槃お参りの仕方

先、お寺に着いたら、お持ち頂いた掛け物を受付に出してください。次に、塔婆・水の札・線香ローソク等の購入と申し込みを行い、最後にお堂内外をお参りして頂ければ結構です。

一切の煩惱がなくなることを涅槃といいます。涅槃には、常(生き死にがない常住)楽(生き死にの苦しみが
ない安楽)我(悟を得た本当の我)淨(垢れや不正がなく、どこまでも清浄)の四つの徳が具わりますので
常楽我淨の上の二文字をとって、涅槃法会を常楽会といえます。

お涅槃は、六ヶ寺結衆 観寿院↓五智院↓井源寺↓西蓮寺↓西福寺↓延命寺の輪番で行います。



七、法事

亡くなった方に、より一層の功德を積んで頂くための、家族親族が行う追善供養を一般に法事といえます。法事は一周忌・三回忌・七回忌・十三回忌・十七回忌・二十三回忌（二十五回忌は地方慣例）二十七回忌・三十三回忌・三十七回忌・五十回忌と進んでいきます。年忌の数え方は、亡くなった年から数え始めますので例えば平成元年に亡くなると七回忌は平成七年です。年齢を数えるときの、数え年の繰り方と同じです。

法事の予定が決まれば、早めに寺へ連絡を入れて日程の打合せをしましょう。翌年の法事の予約は十一月下旬以降に受け付けます。

法事に準備する物、本尊様の掛け軸・祭壇・位牌・塔婆（トوبا）・墨汁

霊供膳・お供え物・花・ローソク・線香・打ち鳴らし・焼香の準備（焼香器・焼香炭）など。

墓参りもしますので、墓のお供え物・花・ローソク・線香・参り米・マッチなど

本尊様の掛け軸と佛具は、寺に貸し出し用がありますので、必要な方は連絡を入れてください。

法事の度に塔婆（トوبا）が必要です。お店で購入してください。

塔婆は回忌によって長さが違いますが、お店で「〇〇回忌用トوبا下さい」と言えば大丈夫です。

法事のお宅で塔婆を書くのに墨か墨汁が必要です。これも準備してください。

墨が無い場合は、塔婆を寺まで届けていただければ、こちらで書いて当日持って行きます。

塔婆とは 法要時に戒名を書いて供養する供養塔のこと

八、お彼岸

佛教では、生死に苦しみ、迷いや悩みの多い心の状態を此岸（こちらの岸）といひ、迷いや苦しみを乗り越えた理想の世界を向こう側の岸に見たてて彼岸、もしくは到彼岸といひます。此岸から彼岸に渡る渡し船の役目をするのが六波羅蜜（六つの修養方法）で、その彼岸に渡るべく努力する週間を親しみを込めて『お彼岸』とよんでいます。

春分・秋分の日、太陽が真東から出て真西に入る。昼夜等しく

そこで、佛教の根本精神の一つである中道（かたよらぬ心）の象徴として

お彼岸の中におかれ、お中日として前後三日ずつ配して修養の方法を実践する日としています。

また、秋分の日には法律でも『先祖を敬い亡くなった人を偲ぶ日』と定められており

昔から先祖供養の季節として親しまれています。自分の家の墓だけでなく、日頃ご無沙汰している親戚等の墓もお参りし、墓参りをきっかけとして我が家の歴史を子供に伝えたり、人生について語り合うのも意義深いお彼岸の過ごし方といえましょう。

六波羅蜜について

① 布施（ほどこしをする）

上から下へ何かを与えるのではなく、人間は誰でも何かの特徴を持ち、どれほどの力を持っています。

学者は学問の力を、労働者は体力を、財のある人は財を、技術者は自分の持てる技術を世のため人のために提供する。何もなくとも、やさしい言葉・にこやかな微笑みだけでも、人の心を救うことが出来るのです。

② 持戒（規則を守る）

我がまま・気まま・身勝手、ふしだらを平気でやっていたら不幸を招くだけ。

人間は、人間の道を守らなければ自由には生きられません。

法を守り、社会人として秩序を維持し人の道を守ることが彼岸に渡る第二の船となります。

③ 忍辱（がまんする）

堪え忍ぶということは、弱者の道徳と思うのは間違いです。

不利益な立場に置かれたとき、よくそれに堪え、静にものごとの理非を判断し

広い目でまわりを観察するだけの心のゆとりを持って、何事にも堪え忍んで行くことが第三の船となります。

④ 精進（はげむ）

いつの時代でも怠け者が成功したためしはありません。

人間はその時代に応じて、環境にふさわしい勉強をしなければいけません。

精進努力が成功の絶対条件であり、これが不満足な此岸から満足の彼岸に達する第四の船です。

⑤ 禅定（心を落ちつける）

世の中が騒がしくなり、仕事が忙しくなればなるほど、落ちつきが必要になります。

安定した心から正しい判断が生まれます。心の落ちつきを保っていくと

それが健康の増進に役立ち生活力の源になります。平和の彼岸に到る第五の船となります。

⑥ 智慧（ちえをみがく）

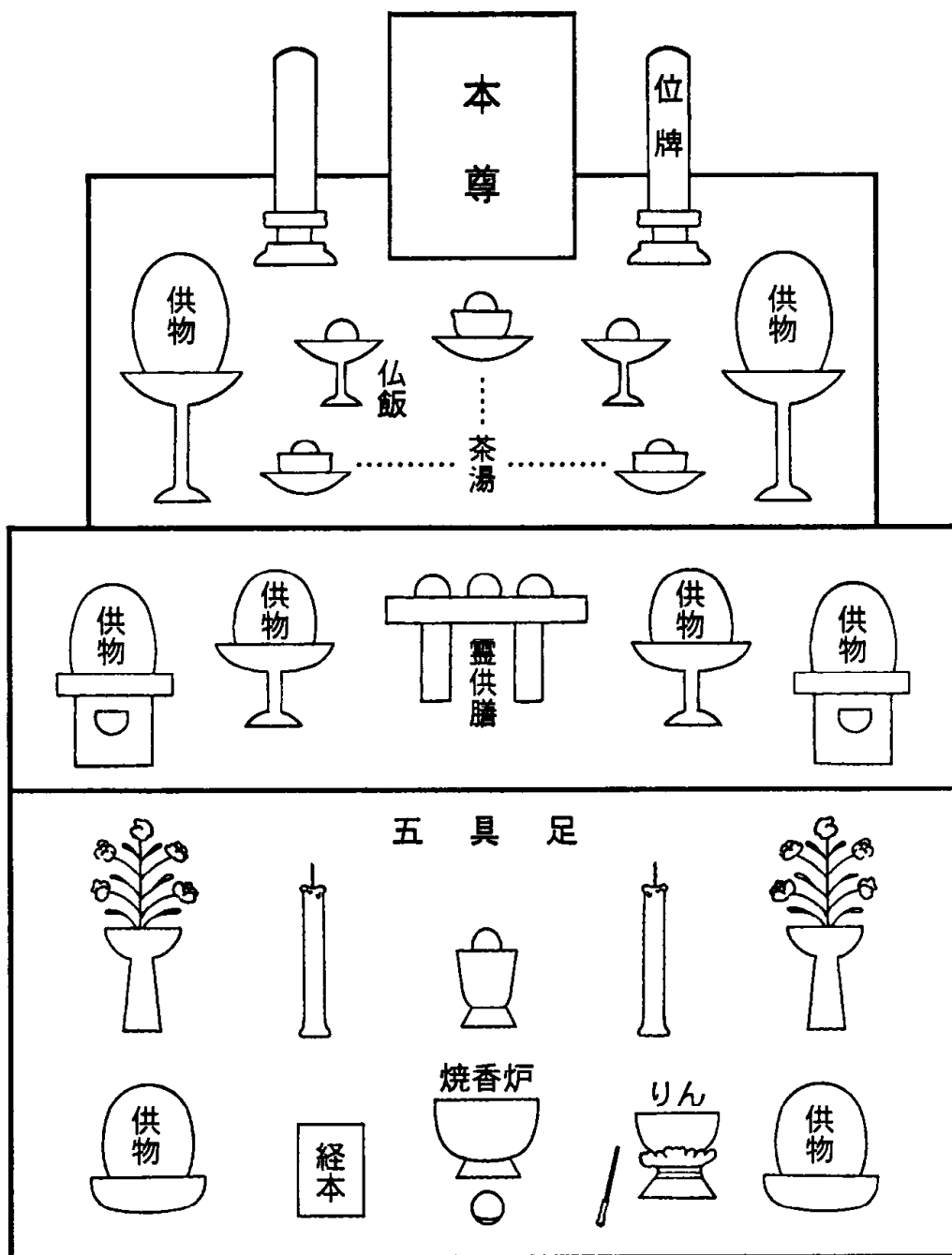
科学はすばらしい進歩を遂げています。科学知識を尊重しなければなりません、忘れてはいけなは科学は人間の幸せのために有るのだということです。もの知りのちえではなく

人生を正しく見極めていく智慧の眼を明らかにしていくことが彼岸に渡る第六の船となります。

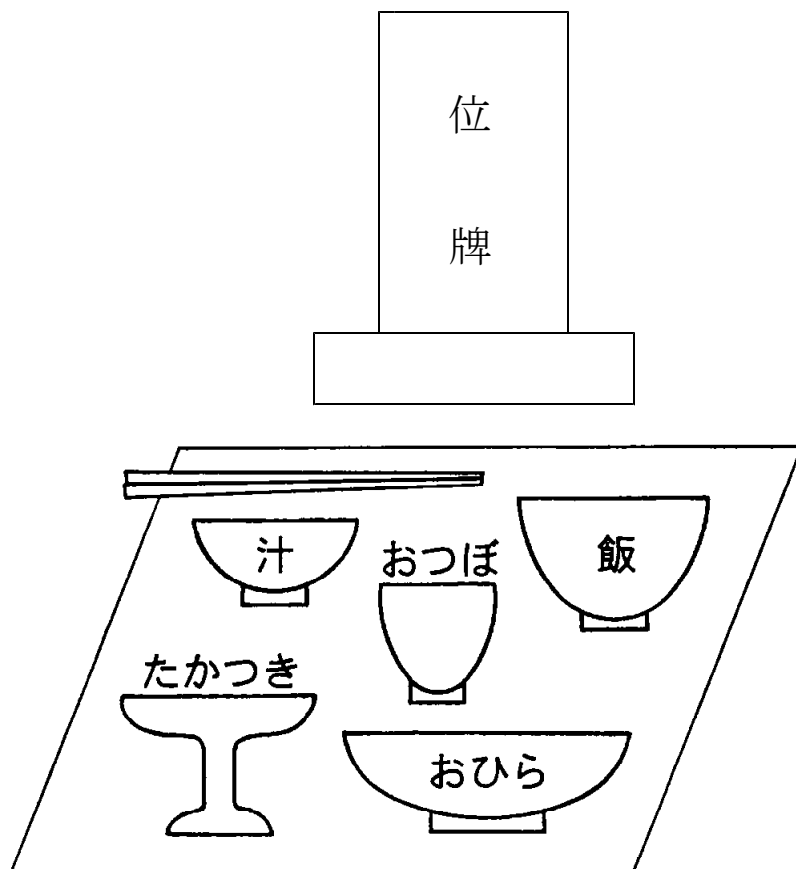
九、法事等祭壇の例

(参考にして頂くための一例です。)

本尊様は、大日如来・大日如来・十三佛など(寺に貸し出し用がありますので、必要な場合は連絡を入れてください。)
 本尊様のお供え(佛飯・お茶)も忘れないようにしましょう。



十、霊供膳



おひら・・・しいたけ、にんじん

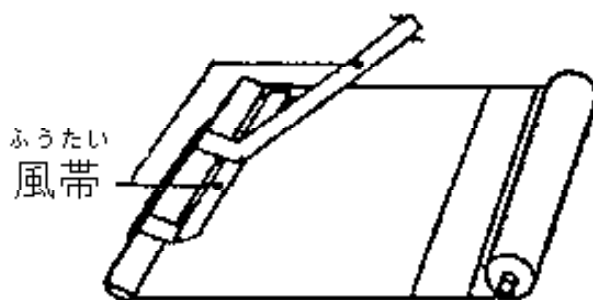
高野どうふ、こんぶ
大根などの煮物

おつぼ・・・煮豆 白和え

たかつき・・・酢物

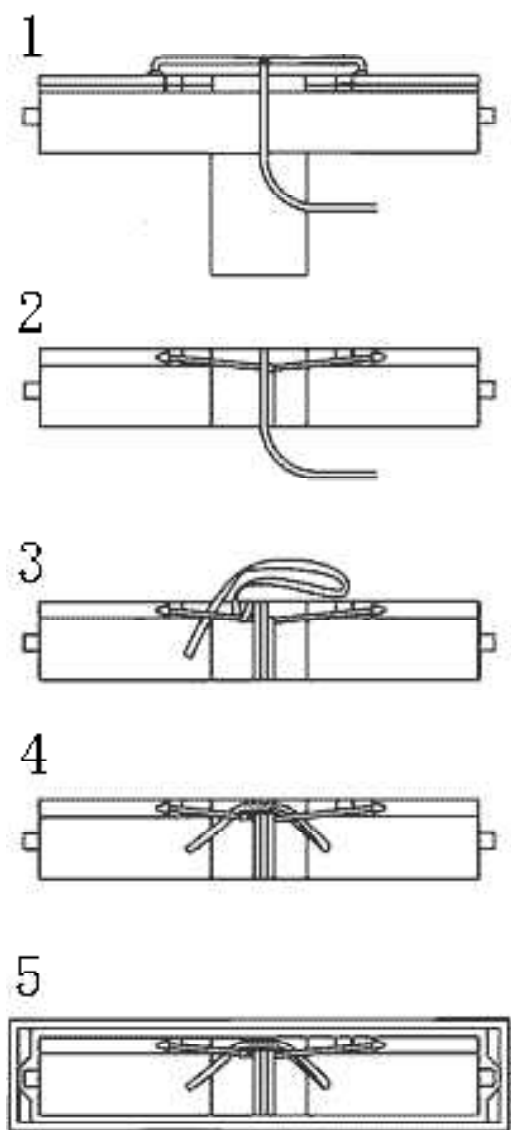
霊供膳はご先祖様のお供えですので、位牌の方へ向けて供えてください。

十一、掛け軸の仕舞い方



掛け軸をしまう場合、風帯ふうたい（掛け軸上部にある、細くて長い帯）の畳み方は上の図のように左の風帯は右へ、右の風帯は左へ折り曲げます。軸に巻き込むと、巻き癖がついてしまいます。

紐の結び方は左の図を参考にしてください。軸の掛け紐は、あまり強く締め付けないようにしましょう。掛け紐が強い場合、軸にシワが入りますので注意しましょう。

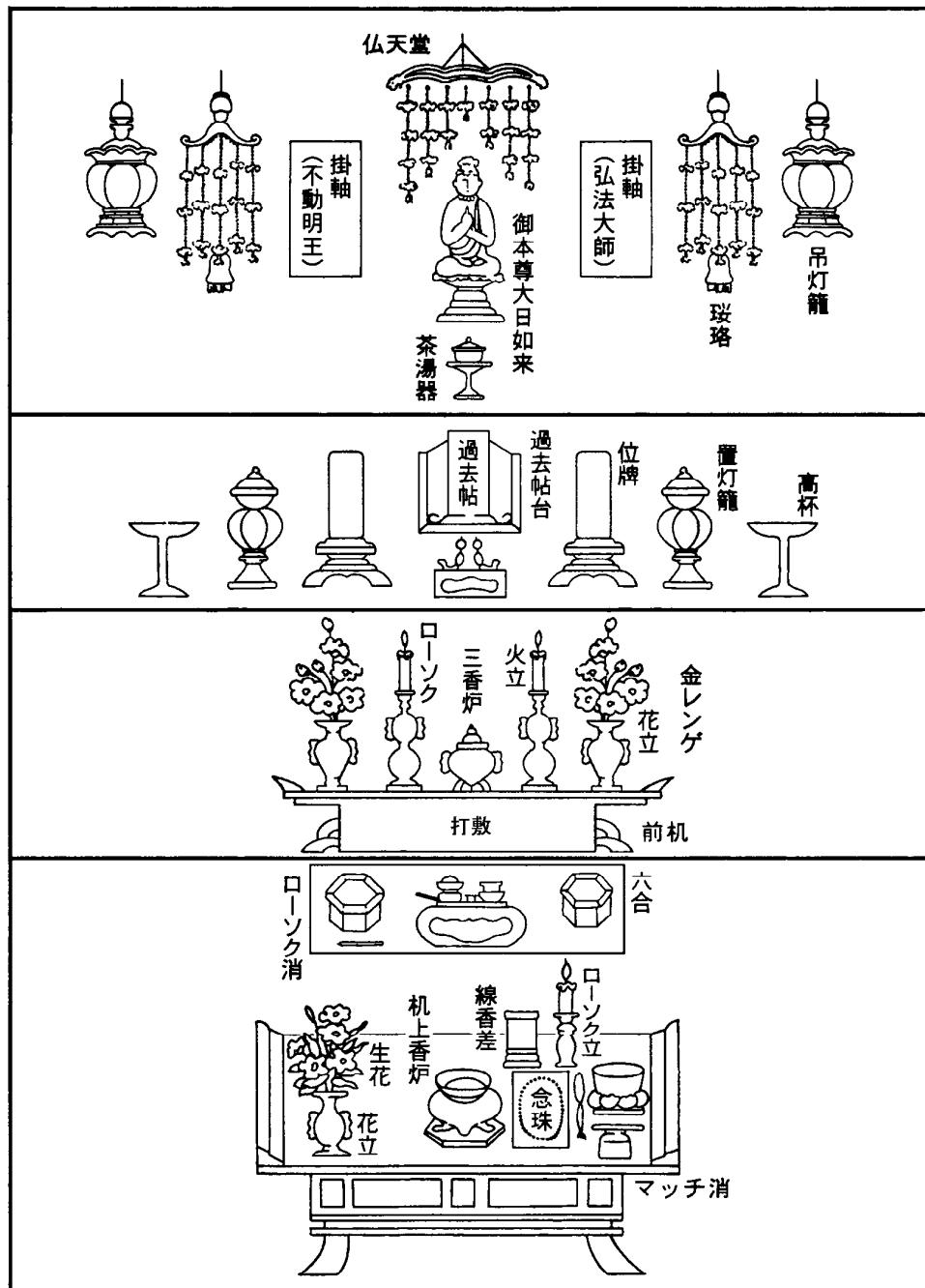


軸は湿気を嫌います。春秋の天気の良い日に、直射日光を避けて虫干しをしましょう。

十二、佛壇のまつり方例

(参考にして頂くための一例です。)

佛壇は、位牌を祭る為だけでなく、その家をお守り下さる本尊様のお住まいです。新しく購入・入れ替えをされた時は、本尊様(大日如来・不動明王・弘法大師)の開眼供養と佛壇のお清めに参りますので、寺へ連絡を入れて日程の打合せをしましょう。



十三、永代供養について

観寿院では、高齢化や少子化等々、諸事情で佛壇や墓地のお世話が困難になった方のために位牌と遺骨の永代供養が出来るお堂（位牌堂）を平成二十四年に建立致しました。

位牌永代供養料 — 壹百万円（専用厨子一区画分）

遺骨永代供養料 — 参拾万円（二霊以上同時に預かる場合は、五拾万円）

永代供養を申し込まれる場合、同意して頂く事項がございます。

※お位牌は、専用厨子に納まるよう作り替えて下さい。

※繰り出し位牌の場合、中板は黒檀などの文字を彫るタイプでお願い致します。

※位牌棚が一杯になった場合、お位牌の古い順に位牌堂本尊（釈迦如来）祭壇内に移動して供養致します。

※遺骨棚が一杯になった場合、遺骨は合葬して土に還します。

※納めて頂いた永代供養料は、如何なる場合も返却致しません。

尚、申し込みは檀家内外を問いません。詳細は当院までお問い合わせ下さい。

五寶山 観 壽 院

（〇八九六）七四―二四三二

URL : www.kenjuin.jp





わが家の備忘録

年中行事のメモ等にお使い下さい。